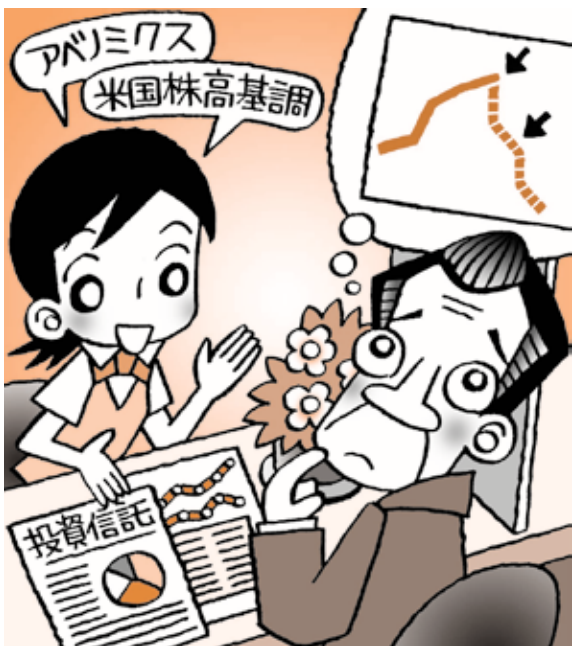


お客様の悩みを解決する

投資信託アドバイザー

●投資環境が好調ないま実践したいフォローのポイント●

特集



好調な投資環境を受けて、すでに保有している投資信託について、利益確定のための売却や保有の継続を考えたり、追加の投資を検討したりするなど、この状況でどのような投資を行うべきか悩むお客様も多くなっています。

本特集では、いまお客様が抱える悩みや不安を挙げ、どのようなアドバイスやフォローを行うべきか、ポイントを解説します。

マーケット要因を把握して 好調な投資環境の裏にある お客様の悩みに応えよう

投

資信託協会が6月に発表した投資信託概況によると、

5月末時点の投資信託の残高は102兆4574億円と過去最高額となり、初めて100兆円を超えました。これは、企業の業績回復を受け、国内株式市場が堅調に推移したことや、円安が進行したことによる為替差益を得られたことなどが大きく貢献しています。さらに好調な投資環境を受けて新規の個人マネーが流入したことも影響。NISAも残高増額に一役買っているでしょう。

アベノミクス等を受け

円安・株高→投資信託好調

では、ここまで投資環境が好調なのはなぜでしょうか。

日本では、第2次安倍内閣にお

いて、安倍晋三首相が掲げたアベノミクス「3本の矢政策」によるところが大きいでしょう。

「3本の矢」がスタートしてから2年半以上が経過し、金融政策や財政政策の効果により、景気は回復基調を見せています。また、中長期的な成長戦略も徐々に実行され、賃金引上げ・有効求人倍率・企業の経常利益などが高水準となっています。

特に、質的・量的緩和により、1ドル＝120円超の円安となり、日経平均は一時1万4000円台で足踏みするもついに2万円台を突破。すっかり株高・円安基調が定着しているといえます。

一方、米国は、リーマン・ショック後の景気低迷を脱却するため行われた量的緩和政策（QE）に

より順調に景気が回復。現在はQEを終了し、利上げに向けた準備段階にあるといえます。

こうしたアベノミクスや米国の景気拡大を受け、円安・株高となり、それに合わせて多くの投資信託も好調な動きを見せています。

運用が好調だからこそ お客様が抱える悩みもある

こうした好調な投資環境を受け、お客様の投資信託の購入意欲が高まっています。

例えば、「リーマン・ショックで値下がりし、塩漬けになっていったファンドについて、ようやく利益が出てきた。だから追加投資したい」と言う人が増えているのです。また「周りが儲かっているのでも私も乗り遅れたくない」と考えるお客様もいるでしょう。

しかしながら、各指標が好調なことから生まれる不安や悩みもあります。「株価はいますがピークなのではないか」「投資信託を買った途端に下がるのではないかな」などと不安に思うのです。

すでに投資信託を保有するお客様の場合は、「保有する投資信託に含み益が出ているいま、売却すべきなのか。もしくは好調なので保有を継続すべきか」などと、保有する商品をどうすべきか、悩んでいるかもしれません。

こうしたお客様の悩みを解決するためには、今後投資信託の基準価額に影響を与えそうなマーケット要因を整理して情報提供を行うのがよいでしょう。以下では、①日本、②米国、③欧州、④中国・新興国について、それぞれ見ていきます。

①日本
日本株はまだ割安感があり、インフレ率2%の達成を目指し、このまま順調に政策が進めば、今後株高が期待されます。

しかし、安保法案の強行採決などを受けて、安倍内閣の支持率が低下。今後、アベノミクスの政策が行き詰まると、円安による輸入物価の上昇などで国民生活が厳しくなり、景気が悪化するケースも考えられます。